

# 鹿屋市総合計画基本構想について、鹿屋市総合計画審議会が市長へ答申



山下市長に答申を手渡す山下求副会長



平成20年度からの10年間、鹿屋市のまちづくりの指針となる「鹿屋市総合計画基本構想」について、12月13日、鹿屋市総合計画審議会（岡崎継義会長）から市長に答申がありました。

基本構想は、平成18年11月に市長からの諮問を受け、同審議会が1年以上にわたり、慎重な審議を重ねてきました。

答申では、市の将来都市像を『ひと・まち・産業が躍動する「健康・交流都市かのや』』と設定し、その実現のために「心豊かでいきいき健やかな人づくり」、「安心して暮らせる快適なまちづくり」、「にぎわいと活力あふれる産業づくり」

を基本理念に、時代に合致した自立都市の形成を目指すこととしており、必要な手続きを経て、市議会12月定例会に提案しました。

なお、基本構想に基づく基本計画については、近日中に答申をいたたく予定であり、基本構想と併せて総合計画として今年度中に策定する予定です。

## 【問い合わせ】

市企画調整課

☎0994-31-1125



審議会の様子

## 拉致被害者と特定失踪者のパネル展を開催



ブルーリボンは、北朝鮮と日本を隔てる「日本海の青」と拉致被害者とその御家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。

12月11日から16日まで、北朝鮮人権侵害問題啓発週間（12月10日～16日）の一環として、「拉致被害者と特定失踪者のパネル展」が、市役所で開催されました。このパネル展は、北朝鮮当局による人権侵害に対する認識を深めてもらうと開催されたもので、現在、日本政府は17人の日本人を北朝鮮による拉致被害者と認定しています。

認定されている拉致被害

者の1人に輝北町市成出身の市川修一さんがおり、今から29年前の昭和53年に、増元るみ子さん（始良町出身）と吹上浜に出かけ消息を絶っています。

また、拉致の疑いが濃いとされている特定失踪者は、250人を超えていると言われています。

会場には、拉致被害者や

特定失踪者の写真パネル、拉致問題を訴えるパンフレットなどが展示されたほか、北朝鮮への経済制裁を呼びかける署名簿や募金箱が設置され、署名のため多くの人が足を止めていました。

## 【問い合わせ】

市福祉政策課

☎0994-31-1113

北朝鮮に拉致された市川修一さんらの早期帰国を！  
北朝鮮人権侵害問題啓発週間 十二月十日～十六日

市庁舎に掲揚した懸垂幕



拉致被害者の写真パネルなどが展示されていました。